

第8回 市民と議会の意見交換会

(記録)

- 1 開催日 令和5年5月21日(日曜日)
- 2 会場 市役所本庁舎、黒川地区公民館、きのと交流館、
築地農村環境改善センター
- 3 実施要領 議員を2グループに分け、意見交換を実施。テーマは、①「子育て・教育、健康・福祉、産業・雇用・生活基盤について」、②「地域の課題について」を設定。
- 4 参加者 13名
- 5 意見交換内容

【1班】

- 1 開催時間 午前10時00分～11時25分
- 2 会場 胎内市役所 4階 全員協議会室
- 3 参加者 3名
議員 6名
小野徳重、渡辺宏行、薄田 智、天木義人、羽田野孝子、笥 智也

【主な発言】

子育て・教育について

○参加者

知り合いの保護者の話だが、学校以外での塾や習い事の負担が多く大変とのこと。中でもスポ少や部活動での時間的・金銭的負担がかなりある問題について対応策は。

⇒別の参加者

習い事への対応は人間的・金銭的に行政の仕事ではないと思う。別の施策に予算を回した方が良いのではないかと。

⇒議員

多くの保護者から、スポ少などへ参加する際の移動手段等に対する相談を頂く。行政もどの対応が良いか定まっておらず、我々も他市を参考にするなど努めて良い方向性を見出していきたい。

⇒議員

遠征費などについては、各校にある後援会などに対応頂くのが良いと思うが、少なからず地域でも面倒を見ていく時代になっているのかもしれない。

○参加者

他県から越してきた方が、保育園への入園を相談に行った際の市の対応がひどかった。入園できない旨の説明しかなく困った。その翌年春には、空いたのでどうぞという簡単な対応だった、とのこと。

⇒議員

保育士などの人数に余裕をもって配置しているのではなく、ぎりぎりでやっている中で、途中入園が難しいのが現状。だが、それでも采配することが必要で、その都度の担当者の対応力によるものと感じる。

○議員

全国的にも問題になっているが、少子化についてどう考えているか教えてほしい。

⇒参加者

親世代の人たちは、自分たちの生活のなかで楽しいことや自分の時間が優先で子どもを求めないのではないか。また、お金に余裕がないことで2人目や3人目を考えられない夫婦もいると思う。

○参加者

小学校など、統合して切磋琢磨していく学校環境は必要ではないか。

⇒議員

教育委員会にて、答申を受け中学校の統合に向けた検討委員会という形に舵を切ったところだ。早くても10年ほど時間がかかる見通しとのこと。小学校についてはその後の対応を考えているようだ。

⇒参加者

小中一貫となる9年生という案についてはどうか。

⇒議員

検討委員会のなかで、一つの選択肢としてとらえている。

⇒議員

小中の統合となると、少ない人数のまま9年過ごすことになるため、厳しい問題と捉える考えが強いようだ。

⇒参加者

統廃合のデメリットとして、人数が多くなる分不登校など増える可能性が高まると思う。また、9年間環境が変わらないことで対応力が身に付かず、次の進学を経験した際、環境が変わることで不登校などになる可能性が高くなるのも不安。

健康・福祉について

○参加者

ふれすぽ胎内にあるトレーニングルームの機種が少ない。利用してみたが続けようとは思えなかった。機種や内容を充実させて、市民の利用を増やすなどの提案はどうか。

⇒議員

同感である。知人に紹介しても同じように継続利用する人がほとんどいないようだ。初心者向けのメニュー構築など対応を考えることも必要ではないかと考える。

⇒参加者

民間企業が経営するトレーニングルームと併用しているが、利用料金が低い民間企業の方がメニューも機種も充実しているので、利用回数が増え健康増進になる。

⇒参加者

やるなら民間企業のようにきっちりとメニュー作成をして対応するか、自由に利用可能な状態にするか、的を絞ったほうが良いと思う。

⇒議員

財源の問題もあるから、新機種増大などは厳しいものがあるのが現状だろう。

⇒参加者

インストラクターがいるのであれば、せめてメニュー作成をやっていただきたい。

産業・雇用・生活基盤について

○参加者

洋上風力発電計画が順調でよい。

⇒議員

地元の方々からそれに関する不具合な話など出ていないか。

⇒参加者

特に問題ないと感じる。

○参加者

農業への就労者の少なさ、後継者不足の問題など、地域にしかない生産物の継承が不安。

⇒議員

現在実働している就農者も、生産組合などで運営している就農者も高齢化が進ん

でいる。それに対して学生たちはどう考えているのか。

⇒参加者

進路として、農業以外に就職する人が多い。農業に興味が無いようだ。

⇒参加者

就労時間に対する収入の少なさが大きな問題だ。

⇒議員

買取価格・販売価格の安さと、農業機械や肥料代の高騰により、離農者が増えると共に若い世代が担えないという魅力のなさが実情である。

⇒議員

築地地区の畑作のような基幹産業とした農業継続が人口減少を防ぐ方法かもしれない。

○議員

食料自給率が38%と低いが、食料農業大学としてはどう考えているか。

⇒参加者

自給率の低さを国産自給率という名目を作って若干上がっているようにみせている。輸入であったり、様々なバランスが大切だと思う。

⇒参加者

パンやパスタの方が糖質摂取などの面で抑えられると言われ、米は最近悪者にされている。日本人が米を食べなくなっている。

⇒議員

昔は米を、ひとり一年間で60kg食べていたというが、今は40kgもっていないようだ。当然米も余ってくる。

○議員

米粉の生産が新潟製粉で2割。今後地元農家で米粉用の水田を増やしていくのはどうか。また、胎内市名物となる米粉の新商品開発を若い発想でどうにかならないものか。

⇒参加者

米粉を利用した製品製造会社の社長の講義を聴いたが、小麦粉と米粉の成分の違いから、品質維持の面で全部米粉というのは難しいとの話だった。

⇒議員

グルテンフリーの製品がヨーロッパ等で売れているみたいだ。

⇒議員

生産コストが高いのが米粉のネックだが、小麦粉の輸入値段が上がってきている今がチャンスかもしれない。

フリー討議

○参加者

春に行われたさくらまつりで感じたことがある。その際に、築地、大出、湊江、坂井の神楽が出演されたが、地域ごとに違う舞いですごく良かった。ただ少子高齢化の問題があり、存続やどこかで披露するなどのエネルギーがない状態とのことだった。素晴らしい文化が衰退していくのはもったいないことだと思うのでどうにかできないものか。

⇒議員

補助金制度として、合併振興基金などあるが利用する団体も人もなかなかいないようだ。

⇒参加者

良い伝統文化でも、見せる場所・見える場所がないから、演者不足になっているのではないか。披露できる窓口的なものを市に置くなど考えてはどうか。

⇒議員

地域の伝統文化に対して、他地域の人間入れてでも存続しようと考えているところはあるのか。

⇒参加者

そもそも地域限定と考えその発想すら無いようだ。他地域に集落の伝統文化を渡すのはまず考えられないが、他地域の人間が共に学び共に演じることができれば、文化は残っていくと思う。それを市で、調整したりする窓口的な部署など考えてはどうか。

⇒議員

地域の区長さんなりが一生懸命動いているのだろうか。若い人が動いてくれたら素晴らしいことだから広がることを期待したい。

⇒議員

伝統芸能の連絡協議会を組織して、情報の共有をしていくと継続できるのでは。

○参加者

まつりの事についても気になることがある。3年間中止されたことで、一番大事な高校一年生世代が、中学3年間まるっと抜けてしまっていて厳しい状況である。また、最近はいかなくてよいのであればあえていかないと考える家庭も増え、観客としての祭りへの参加も減ってきている流れの中でコロナ禍を迎えたため、これからのまつり運営や山車運行などが心配だ。

⇒議員

確かにそれはある。我々議会もこの4年間制限があって、行事にしる飲み会にしる無くて済んだ。じゃあこれでいいのではないかとなくなってしまった。今やりまし

ようとなっても冷え切っているのでやる気概も盛り上がりもないのが現実だ。

⇒参加者

まつりの音がなかったことで、再び聞こえてきたときに地元のまつりへ興味を持ってくれるかが心配。

⇒参加者

ペアッとやった方が良い。やらないと老け込むし何より金が回らなくなる。

⇒参加者

中条まつりで山車が出せない町内も出てくるかもしれないから、早くからまつり雰囲気を出すなどしてもらえると助かる。

⇒議員

学生アルバイトなど雇っての運行はどうか。

⇒参加者

昔はイリノイ大学などに協力頂いたこともあった。どこの町内も基本ウェルカムなので、地域内外の人たちの気持ちが盛り上がるよう、早めの動き出しを期待したい。また、村上大祭のような、盆や正月に帰省するより祭りに帰省する、そんな思いの詰まったまつりにしたい。そうすることで地域性が根付くのではないか。少子高齢化や過疎化を防ぐ、一助となるかもしれない。

○参加者

工業団地の太陽光発電システムが広がっているが、それより働くところの提供が重要ではないか。全国的に人口減少している中でも福岡みたいに働く場があることで人口が増えている地域もある。ビックプロジェクトを持ち込んで就労増から人口減少対策を期待したい。

⇒議員

代議士と行政のつながりに期待しましょうか。

⇒議員

洋上風力の件で、メンテナンス会社などの誘致促進を市長にも進言している。

- 1 開催時間 午後1時30分～2時35分
- 2 会場 きのと交流館 大広間
- 3 参加者 3名
議員 6名
小野徳重、渡辺宏行、薄田 智、天木義人、羽田野孝子、笥 智也

【主な発言】

子育て・教育について

○参加者

適正規模の生徒数について、答申の中身として、現在の学校体制の継続、小中一貫校として統合、小中別で学校同士の統合の3点の選択肢が出され、市報やホームページでは市内4中学校の統合を進めますと言い切っているようにとれる文書だが、どういう形になっていくのか。

⇒議員

適正規模検討委員会が出した答申を、一年かけて執行部が検討し出した方針が市報等に掲載されている。今後統合に向けた検討委員会を発足して具体的に進める状態と認識している。

⇒参加者

議会が置き去りにされているのではないか。

⇒参加者

先々地域説明会なども行われると思うが、学校が遠くなることに反対する声はかなり出ると予想している。小中一貫校ならまだしも、4中学校の統合となると小学校がどうなるのか。小学校の統合の話もあるようだが、登下校にかなり時間がかかることが予想される。押し進めるのはいかがなものか。

⇒議員

小学校はとりあえず現状維持、中条小学校については、校舎の古さから建て替え工事をする事となった。中学校統合に対するどことどこか数や併せ方までの話にはまだなっていないはずだ。とりあえず検討委員会の立ち上げまで。

⇒参加者

4中学校の統合を進めるということは、全部統合するとは受け取れないが。

⇒議員

10年先を見据えて今後検討していくというところまでしか進んでいない。

⇒参加者

小中一貫に関する検討は。

⇒議員

とりあえず中学校の統合について進めることを優先するとのこと。

⇒議員

中学校の統合に向けたステップを今後進めていっても、最短で10年はかかるとの話は聞いている。

○参加者

小学校や中学校の話が常に出ているが、それより前の保育園の関係にも目を向けてもらいたい。人口減と少子化によるものは仕方がないことだが、近隣市町村、例えば聖籠町は人口が増えている。予算に余裕があるからそれができるとなると、ともすれば同じように人口増に向けた行政の動きとして税金の投入をすることも必要ではないのか。また一市町村での対応も限界があるだろうから、他市町村とは違いがあることで整合させるのも難しいかもしれないが、JAも合併するのだから広域での対応も考えていくべきではないか。

⇒議員

広域対応は個人的にアリだと感じる。ただJAみたいな合併のようになるかはわからないが。

⇒参加者

今後の市町村合併についてはないと私は思っている。実際30市町村に合併されたことの弊害も多くあると感じているので、先を見据えた考え方が必要。

⇒議員

広域的な施設の共同利用が重要になってくると思う。県の方からもインフラを含めて広域的に進めなさいとなっている。一行政で施設を整えるよりも、負担をある程度しながら広域的に共同で利用していく必要もあると考える。

⇒参加者

農業に関してもそうだと言える。田畑の耕作放棄地が増えている。高齢化と後継者不足が顕著で、生産組織なども同じように高齢化し厳しい状態にある。そうしたときにJAの合併のように企業体として進めるなど考えていかないと今後の農業は厳しくなっていく。場所によっては外国人就農者の存在もあるからそれも選択肢の一つだ。

○参加者

少子化対策や未婚者が増えている事実への対応についても、他行政と関わり合って解決に努めていけないものか。賃金の安さが、結婚や出産につながらない要因であろう。また地方での人口減対策も重要だ。他の議員さんたちと協力して国に進言していけないものか。

⇒議員

婚活促進について、新発田市・聖籠町と共に広域連携事業として始めているが、

始めた途端にコロナ禍となり鈍化しているのが現状。コロナの5類移行後に期待。また UIJ ターンに対する補助金もあるので対応している。あと晩婚化について、医療の発達などで40歳くらいなら出産は可能のようだが、その後の養育に対する高齢化を気にする節もおおいにあり、結婚に踏み切れない方も多いようだ。

⇒参加者

先日の新聞にあった記事で、少子化の特効薬はないと言い切っている。それでは困るからみんなで考えてどうにかしなければならないのではないのか。個人的に国の施策を変えてもらうしかないと考える。

⇒議員

今の若い人たちは必ず結婚しなきゃと思っていない。多様性の形で一概に言えない。

⇒参加者

やはり収入の差が結婚への妨げになっているのが実情だろう。

⇒議員

そもそも結婚しようという女性がいいるのではないのか。結婚願望云々でなく、資格や環境を生かせる職場がないゆえに都会に出てしまい、残っているのは家を継ぐための長男だったりしているのであれば、まさに結婚相手がいいないとなってくる。

⇒議員

午前中にも話があったが、現在の若い人たちは子どもを持つ時間よりも、自身の時間を優先するが故の少子化もあるのではないかとのこと。核家族化が進んだことで、親に子を預けての自分たちの時間という概念がなくなったことも一つの要因ではないか。

⇒参加者

やはり子どもにかかる医療費やほかのものの無償化を進めていかないと産めないし定住もしないと思う。子育て環境の充実が必要。

⇒議員

私の関連する会社について、就業者の4割が胎内市で、残り6割は近隣市町村である。住むのは別の市、働くのは胎内市ということが、当市に住んで別の市町村へ働きに出る環境に変わっていくよう支援していけば、定住人口が増えるのではないか。

健康・福祉 及び 産業・雇用・生活基盤について

○議員

教師の過重労働に対してどう考えるか。先日市内中学校の校長と話す機会がありその

際の情報で、三者面談が昔みたいに日中ではなく保護者の終業後にされているとのことで、そういったことも過重労働になるとのこと。勤務期間中に休みを取るとパートなどクビになるから無理だという意見。個々の問題ではなく大きな対応をしないと駄目なのではないか。

⇒参加者

市民と行政とプロジェクトを組んで強烈に推し進める必要がある。予算もしっかりつけて、プロジェクトリーダーに年寄りではない若い人を立て、自分たちのことは自分たちで考えろと促すのはどうか。

○参加者

保育士など非正規職員が多いことについてもどうか。

⇒議員

国の方針だから現在はやむを得ない。

⇒参加者

正規と非正規の収入の差がありすぎて、パートの方など結婚できない。

⇒議員

だから就労者は民間に流れていく。

⇒議員

先日きすぎ保育園に視察に行ったが、クラス毎の人員配置が公立より良かった。保育園運営も民間移行が進んできているのが実情だ。

⇒参加者

ひだまり保育園も乙地区以外からの通園者も多い。良くやっていると思う。

⇒議員

公立より民間の方が給料も高いのもあるのだろう。昔の公務員給与は安くて大変だったと聞く。

⇒参加者

実際倍くらい違った時代もあった。民間大企業がとてもうらやましかった。

⇒議員

今は女性も高学歴になり、より良い勤め先に進み過ぎしている。そうなると結婚して子どもを産もうとはならないようだ。仮に産んだとしても、第二子目を未満児から預かってくれる場所がないなら作らないと考えてしまう。保育士の足りなさも原因か。

⇒議員

保育士でも介護職員でも、管理作業中の事故の責任がついてくることもなり手不足の要因か。

⇒参加者

核家族化の弊害だ。子どもを預けて働かなければならないからそういった問題が出てくる。

⇒議員

相当の覚悟をもって変えていかないとどうにもならなくなっている。若者の話をこうやってしていてもいい話ひとつでない。考え方を進めていかないと変わらないと思う。

⇒議員

高齢者に対しても年金取得年齢がどんどん上がって、働け働けとなってきた。昔は選挙の絡みもあって高齢者に手厚かったがそれも過去の話。

⇒参加者

全国的に選挙に対する興味もずっと減っている。幸せだから関心がないのか。

⇒参加者

投票所の数も昔に比べ減った。

⇒議員

期日前投票や投票時間の延長をしても、投票率は下がるばかり。興味が無いのは我々議員が一生懸命頼みに歩かないのも要因だ。我々の責任でもある。

フリー討議

○参加者

議会での質問が、毎回の方とそうでない方がいる。他行政には全員するところもある。全員とは言わないが、もっと活発化を期待する。

⇒議員

真摯に受け止める。

○参加者

道路や歩道の草刈りなど、区長によく上がってくる要望だがもっと市に対応してほしい。海沿いのニセアカシヤの木も伸びてきて大変だ。

○参加者

財政の厳しさから、お金がないのならこんな方法もあるのではないかと議員からどんどん提案していくよう望む。

【2班】

- 1 開催時間 午前10時00分～11時30分
- 2 会場 黒川地区公民館 教養娯楽室
- 3 参加者 3名
議員 7名
八幡元弘、丸山孝博、渡辺栄六、渡辺秀敏、森本将司、坂上隆夫、増子達也

【主な発言】

○参加者

鼓岡地区で仕事をしているが、子どもがいないというのを実感している。地域の皆さんに話を聞くと、黒川や中条のほうに家を建てて出て行ってしまおうというケースが多い。先日友人の農家の田植えの手伝い（鼓岡地区）をしたが、後継者がまったくいないようで地域が消えていってしまうのでは無いかと危機感を覚えた。

⇒ 議員

子どもの数が全国的に少なくなっており、黒川保育園も今年3月で閉園となった。現在きすげ保育園が黒川保育園の施設を利用している。もともと黒川保育園は保育園3園を統合してできた園だが令和4年には十数名の園児しかいなくなり閉園となった。小学校でも1クラスを維持するのがやっとな深刻な問題である。安心して子育てできる環境や雇用やいろいろな環境作りが必要だ。議会でも委員会でも意見や要望はしている。

⇒ 議員

中学校も現在4校あるが人数が少なくなり部活動もままならず、競争意識も低下し学力低下に繋がる懸念もあり、小中学校の適正規模検討委員会が立ち上がった、10年後を目途に統合する方針が示されたところである。

⇒ 参加者

廃校後の中学校の利用方法は考えているのか。

⇒ 議員

執行部よりはまだ具体的な案は示されていない。2校にするか1校にするかも決まっていない。

⇒ 参加者

廃校後の中学校に工場誘致なども考えたほうがよいのではないかと。

○参加者

地域の区長をつとめて3年目になる。昨年は防災の補助金を活用してヘルメットを購入した。上限20万円で2/3の補助である。今年は防災のテント(約20万円)と、ポータブル電源(スマホの充電などで使用するため)を購入しようとしたが、町内単位での高額なものは購入が難しい。町内財政により防災用品の準備がまちまちとなりがちだ。町内単位の補助金での購入ではなく、市で購入し集落センターなどで常設するべきだ。

⇒ 議員

まったくその通りだと思う。

⇒ 参加者

町内や集落によって取り組みに差がでないようにしてほしいと痛切に感じている。

他町内・集落では電源は高額なので手がでないと聞く、私の町内ではどうしても必要だと思うので買う方向で考えている。

⇒ 議員

区長会などで今回のような要望をだした事があるのか。

⇒ 参加者

ない。コロナ過で懇親会もなく機会もなかった。

⇒ 議員

春と秋に区長会があるので、その時に声をあげて頂きたい。

⇒ 参加者

補助金ではなく、20万円や30万円を予算としてもらえるようお願いしたい。

○参加者

農業をしているが生産者組合がなくなり補助金がもらえない、後継者もいないし先が見えない、農業者が減っているのは儲からないからだ。米価をもっと上げなければならない。農協合併は賛成できない、だめだと思う。燃料や肥料高騰でますます儲からなくなっている。手遅れにならないように若者が農業に目を向けるようにしてもらいたい。

⇒ 議員

農業創意工夫応援事業で15万円~20万円の補助金がある。何項目かある。

⇒ 参加者

何項目もクリアしなくてはいけない補助金は使いづらい。

○参加者

小中学校の統合について、統合・2校・小中一貫・その他など出ているが、市長の答弁では統合する方向でという事だが根拠がないようだ、議論はしたのか。また、財政的な面と不登校が増えないか心配である。逃げ場がないと問題である。私の経験上統合して不登校が増えたケースは、いやと言うほど見ている。対策などはあるのか。

⇒ 議員

不登校の特例校を設置していこうという国の方針がある。今は十数の自治体しか設置していないが最低限各県1校は設置する方針だ。不登校に対する子どもの居場所は大切であり居場所の推進はやっていきたい。

⇒ 議員

学校で複数施設をつくった時に国の補助がでるようだ。そのような補助金も特例校設置で活用できると思う。

⇒ 議員

部活動の地域移行で200万円ほどの予算がスポーツクラブ胎内の委託金として組まれた。柔道やテニスなど7種類ほどが対象で、指導者への謝金は、1日1団体6,000円/月2回までが上限となるが支払いができるようになった。保護者の負担がないように配慮している。

【その他意見】

○参加者

有意義だったが参加者がすくない。もっと多岐にわたる方の意見を聞きたい。

- 1 開催時間 午後1時30分～3時00分
- 2 会場 築地農村環境改善センター 2階洋室会議室
- 3 参加者 4名
議 員 7名
八幡元弘、丸山孝博、渡辺栄六、渡辺秀敏、森本将司、
坂上隆夫、増子達也

【主な発言】

○参加者

1) 昨年、洋上風力の事前調査でエントリー希望の業者が2基の櫓を建てた。我々が人員や荷物の運搬をしたが市は把握していなかった。総合政策課に言って築地地区に案内を出してもらった。今年は村松浜沖・中村浜沖・笹口浜沖・荒井浜沖に4基の櫓を建てる予定で、今日1基目が設置されたがそれも理解していなかったので、各地区に回覧板で回してもらった。市は洋上風力発電に対してアンテナが低いと思う。

2) 胎内市の海岸浸食がすごい。市議会議員にできることではないと思うが、県や国会議員に働きかけて、せめて今残っている村松浜の海岸だけでも残してほしい。構造物をただ入れればいいとは思わない、色々な方法を模索するべきだ。新潟の青山海岸や日和山海岸も護岸工事を行っているのでノウハウがあるのではないか。

3) 村松浜の校舎がそのまま残っているが、校門周りのフェンスが腐食して倒れそう。その近くに子ども達のスクールバスの待合所がある。また木が伸びて覆いかぶさってきて危ない、今後台風や雪で折れたりするかもしれない。地域整備課の担当だと聞き依頼し、今年度中にやるそうだが危険なのですぐにやってほしい。

4) 市は作った施設の管理やメンテナンスをしていない。メンテナンスができなければ各集落などにメンテナンスを委託してはどうか。管理やメンテナンス不足が各所でみられる、市の対応に問題があると思う。

⇒ 議員

洋上風力発電の調査をするのであれば市に一声かけるのがすじだと思う。業者が調査を行う場合は市に連絡するように働きかけるべきだ。

⇒ 参加者

工事においては秘密事項があるようで、業者と漁港が個別にやり取りしている。情報が入って来ないのは行政の怠慢だと思う。

⇒ 議員

市や市議会議員と業者は直接接しないように国から指導されている。市は特定の業者に関わらないようにしていると思う。

⇒ 参加者

それは理解しているが、誰にでも見える所に櫓が立っていくので市民にきちんと

説明すべきだ。環境アセスメントも始まる、我々も絡んでくるが、地元の住民に関連することは事前にアナウンスすべきだ、それにより洋上風力発電の市民の理解も進むと思う。

⇒ 議員

地域からそのような要望があったと執行部に伝えておく。

⇒ 議員

中村浜と村松浜の真ん中に風車があるが、崖が波で浸食され風車のすぐそこまでえぐられている。昨年の秋に国会議員・県議・県職員・市長に現場を見てもらい対策を講じてもらうよう伝えたが、なかなか進んでいない。

⇒ 参加者

どういうふうに対策をしていくのか議論が進んでいないのではないかな。

⇒ 議員

市ではそこまで進んでいないようだ。

⇒ 参加者

荒井浜と桃崎浜の間はすごく浸食が進んでいて、国道 113 号線の 20m位先まで浸食されている。毎年護岸工事をしていて喫緊の課題だという認識はしているが、まだ浸食されていない砂浜をいかに守っていくかを国や県に働きかけて欲しい。個人的な思いでもあるが砂浜を守って行きたい。

⇒ 議員

フェンスなど危ないところは、すぐに対応するよう執行部に伝えておく。

○参加者

村松浜の浸食だが同じように心配している。市ではどうこうできる問題ではないので、森田県議を通じ県に働きかけてほしい。

旧築地小学校も体育館だけが残っている。子ども達のサッカーや高齢者の卓球やテニスのようなスポーツなど頻繁に使用されているが、雨漏りしていて雨がふると床がびしょびしょになる。市に修繕を依頼したが、解体するので修繕はしないとの回答だった。耐震が必要で工事にお金がかかるからという事だと思うが、利用している側としてはだめだから壊すでは納得できない。残してもらう方向性で考えてほしい。

⇒ 議員

黒川体育館も地域の皆さんに親しまれ存続を希望したが、安全性重視で昨年解体した。地域の方のより所や、体を動かす場所がなくなった。ふれすばまでは遠くてなかなか使用しない。地域の大切なものは有効活用していくよう働きかけていく。

○参加者

1) 民生児童委員や保護司のなり手不足が深刻で、築地地区でも 300 世帯近くあるが次の候補者がいない、区の運営も区長を含め 3 人で切り盛りしている。祭りもあり今後の運営をどうしようかと思っている。どの地区の人に聞いても同じように、なり手不足で困っているようだ。

2) 日本の経済格差が気になる。就学援助制度の利用が 6 年前と比べ増えている。築地地区の区費徴収世帯が 3 年前の 310 世帯から 300 世帯に、今年は 290 世帯に減った。その中でも 20 件程度は減額世帯だ。市の状況も同じだと思うし、これは市の課題だと思う。

⇒ 議員

民生児童委員についてはその通りで手当がほぼない。議会にも取り上げられた時期もあった。引き続き議論が必要だ。制度の問題でもあるので国を動かしていくことも必要、財政問題だけでいいと思わないが解決しなければならない。コロナ禍で物価高騰となり、国からの支援金だけでは足りない事が分かってきた。国の財政支援が必要だ、このままでは格差が広がる事になる、国の支援が求められている。

⇒ 参加者

財政支援としては補助金があるが、使い古された策で胎内市でもこれまでやってきた。合併支援基金で胎内市も恩恵を受けてきた。市長がどうのこうのではなく地域の魅力が必要だと思う。この市をどうしていくんだという人が減ってきた。なり手不足というより担い手不足である。お金の頼らない何かをつくれないかと思う。

⇒ 議員

区長のなり手もいなくなっている。今は輪番制で区長をやっている地域もある。地域の中のコミュニケーションが希薄になっているのが一つの原因かと思う。

⇒ 参加者

議員は市民の代表であるので、市の気運を盛り上げることを希望する。

○参加者

1) 海岸浸食について

私の見解ですが海岸浸食は解消していく方向ではない、IPCC という国際組織があるがそこによると 2100 年には現在よりも世界の海面が 1.1m 上昇すると言われている。地球規模での海面上昇により海岸が浸食していくと考えるべきだ。

2) 海洋プラスチックごみについて

12 月頃～3 月頃までの厳しい荒波によって打ち上げられている。近年プラスチックごみが多くなっていて、プラスチックごみが細かくなっている(写真を用意し説明)。

片付けようにも一人ではどうしようもない。ごみの種類は、ポリエチ／ポリプロ／ペ
ット／発泡スチロールで、放置しておくとし中の強い紫外線で分解・細分化されマイ
クロプラスチックになり深刻な海洋汚染や大気汚染、人への健康に影響がでないか懸
念されている。回収が重要で放置してはいけないと学会等で指摘されている。行政と
各種団体とともに4月5月に定例的にプラスチックごみの回収をするべきだ。

⇒ 参加者

日本海側は対馬海流にのり韓国・中国から大量にごみが流れてくる。我々が小さ
い頃は木の葉っぱや枝などが川から流れついた。たまに大きい木が流れてくると
家の薪にするため拾っていた。10年から20年前ごろから日本のものではない中
国・韓国・北朝鮮などのプラスチックごみが流れ着くようになった。村松浜では
10年ほど前から県（新発田振興局）にお願いし毎年予算をもらい2月末に業者が
大物を全部拾っている。その後4月末頃ボランティア団体や他団体（約40名ほ
ど）で海岸清掃をしている。築地の小中学校で毎年6月頃、海岸清掃を行って
いるがすでに綺麗になっているため、学校から子ども達の意気込みが足りないと言
われ、小中学校の子ども達に冬のごみの写真をスライドで見せて説明したところ、
子ども達の意識も変わったようだ。今年も小中学校からそういった話しをしてほ
しいと依頼を受けている。地道にやるしかないと思う。実態を見せ協力を仰ぐ余
力はあると思う。自分たちで守って行くしかないと思う。

⇒ 参加者

昨年9月に8名で胎内川の右岸の清掃を行ったが、ごみ袋大が24個、冷蔵庫2
つもあり大量のごみだった。今年も9月にやろうと思う。皆関心があると思う、
議員はそういう事をしないのか。

⇒ 議員

今日、村松浜の海岸清掃をしてきた。ハングル文字が書かれているごみもあった。
子どもの頃から見ているが量も多くなっている。村松浜はきちんとごみ拾いは行
っている。笹口浜・中村浜では、築地地区環境改善協議会で毎年ごみ拾いを行っ
ている（50人～60人位、業者含む）。それでも毎年ごみがたまる。もっと大勢の
人が関わらなければならないと思う。なり手不足の話にも関連するが今日行った
村松浜の清掃でも30人位しかこない（村松浜は約280軒ある）。行政を巻き込み
ながら全体で行うのが重要と思う。

⇒ 議員

いつも来る人は同じ人である。気運だとか気持ちの問題だと思う。うまく気持ち
をくすぐればいいのだが。

⇒ 議員

中心となるのは市だと思う。市も市民協働をかかげているがもっと積極的になる
べきだ。

【その他意見】

○議員

今年4年ぶりに集落で祭りを行った。集落は高齢者が多く山車引きはやめにしようとの声があったが、短い距離でもなんとかやろうと言うことになり色々と声をかけ引くことになった。胎内ディアーズの関係者も手伝いにきてくれ、いざ山車を引くと集落には子どもがいないはずなのに大勢の子ども達が集まってきた。地元先輩方のお孫さん達であり集落から出て行った方が多くの子もたちを残してくれていたことに驚いた。それも遠くにいるわけではなくほとんどは中条、新発田、新潟市など近所にいるようだ。おそらく皆さんの集落でも同じことが起きているのではないかと思う。

⇒ 参加者

コロナの前に祭りをした時に農業大学の方が参加し大変盛り上がった。